

丸

文責 山口 幸二



紹介が遅くなりましたが、今年度の武雄北中学校の先生方です。先生方全員の笑顔からは、やる気が伝わってきます。生徒を中心に据え、お互いに切磋琢磨し頑張っていきます。よろしく願います。このほかに家庭・美術の先生と給食室の職員さんがおられます。（名前等は子どもさんに聞いてください。親子の会話に）

下の新聞記事は、5月5日の朝日新聞に掲載された記事です。コロナによる全国インターハイ中止が発表され、全国大会出場を目指し、これまで何年も厳しい練習に耐え、遊びたいことも我慢し頑張ってきた全国の高校3年生への励ましの言葉です。これを読んで、今の状況と重なりました。3年生の一番の目標とする中体連を控え、諦めたくないですね。

高3の高校総体は個人戦も団体戦も県大会で敗れ、本戦に出られませんでした。キャプテンを任されていたのに、先輩たちが長年続けてきた団体戦の本戦出場の記録を途切れさせてしまった。表彰式ではずっと涙を流しながらうつむいていたのですが、観客席

未来は自分で変えられる。前向けば道は開く

柔道男子日本代表・井上康生監督(41)

から私の姿を見ていた母（1999年に亡くなったかみさん）に、その場で2位の表彰状を破られました。「次へ向けて、胸を張って頑張らなさい」。そんな言葉をかけてくれた記憶があります。母も悔しかったんだと思います。自分にとって、すごく刺激になりました。この夏、高校総体がなくなってしまう皆さんと同じように、お父さん、お母さん、先生方もつらい気持ちだと思いませんか。

自分を変えられること、変えられないことがありません。高校総体の中止は変えられない。しかしその先の未来は、自分で変えられます。悲しみにくれて過ぐすか、情熱を持って新しいチャレンジをしてみるか。例えば10回の腕立て伏せを20回に増やす、というのでもいい。読書で知識を養うのでもいい。目標を決めて毎日を通してみる。前を向くことで、道は切り開かれていくと思います。

（聞き手・波戸健一）

R2武雄北中学校 キャッチフレーズを掲げました「挑戦」「前進」「変化」です。

「最も強い者が生き残るのではなく、もっとも賢い者が生き延びるのではない。唯一生き残ることができるのは、変化できる者である」これは進化論の自然科学者ダーウィンの言葉です。動物が古代より生き残るためにとった進化から唱えた教えではないでしょうか。人もまだ進化の中にいます。どんな小さなことにも挑戦し、それを成し遂げたら前進とし、前進した自分の変化を意識する。成長した証を積み重ねてもらいたいです。

この3文字を常に自分に問いかけ、生活することで、新武雄北ができていくと思います。問いかけは、生徒だけではなく大人も問いかけ日々変化したいものです。

コロナ感染症感染拡大予防の緊急事態宣言が全国一律に5月いっぱいへと延長されました。しかし、各自自治体では、段階的緩和の模索が続いております。

そのような中での自粛GWでしたが、ある意味家族団らん楽しいこともあったのではないのでしょうか。私も家族で5日間過ごすことができました。振り返ってみると、恥ずかしいことですが、初めてのこのような気がします。親父失格ですね。

さて、コロナトンネルの出口がまだまだ見えません。安心して学校生活を日常をいつ取りもどせるのかと思うばかりではないでしょうか。

生徒さんはもちろん保護者・地域の皆様方におかれましても、この臨時休業の延長・延長&延長で、学校の授業・行事がどうなるか一番心配されていることと思います。

学校としましては、武雄市教育委員会よりお知らせがあったように、14日から学校を再開します。再開時は、感染拡大防止を大前提に市の対応策に沿って行います。朝の会から1クラスを2班に分け、15人前後のクラスで連なった2つの教室でそれぞれ生活してもらいます。授業は廊下側を向いて廊下側から2つの教室の境の所から、電子黒板等を使って授業を行う予定です。3つの密を作らず、授業の遅れを少しでも取り戻したいと考えております。

次に学校行事ですが、すでに家庭訪問は中止しました。5月下旬の体育大会については緊急事態宣言の中での実施が非常に厳しくなりました。9・10月に延期しても、修学旅行・町民運動会・定期テスト・文化発表会と行事が控えています。生徒からも意見をもらい最良の判断をしたいと考えております。

部活動については、15日から実施します。熱中症が心配される時期ともなり、体力等を配慮しながら、徐々に本格始動へとつなげていく予定です。練習試合等は現時点では5月一杯は禁止とします。

だらだらと長くなりましたが、私としましても初めての経験で、先生方からの知恵を頂きながら、安心して預けられる学校に最善を尽くしていきたいと思っています。ご理解ご協力をお願いします。